

COP10に向けて 生物多様性国際シンポジウム

# 植物保全戦略 ～生物多様性を守る～

Strategy for Plant Conservation to protect  
Biodiversity

地球の持続性を維持するためには人と植物との共生が不可欠です。日本列島の植物保全は今どうなっているか、世界植物保全戦略(Global Strategy for Plant Conservation)の数値目標に合わせて検証してみましょう。

日時：2009年12月5日 13:00-17:30 (12:00 開場)  
場所：中央大学工学部(後楽園キャンパス)  
東京都文京区春日1-13-27 6号館 3階 6309教室  
お申し込み：[chipmunk@h5.dion.ne.jp](mailto:chipmunk@h5.dion.ne.jp) FAX 03-3817-1886 まで  
12月3日までにお申し込みください。(定員100名)。  
主催：生物多様性JAPAN (Biodiversity Network JAPAN:BDNJ)  
植物園自然保護国際機構(Botanic Gardens Conservation International:BGCI)  
後援：日本経団連自然保護協議会(予定)・独立行政法人環境再生  
保全機構地球環境基金・国際自然保護連合(IUCN)・国際自然  
保護連合日本委員会(IUCNJ)・(社)日本植物園協会・日本自  
然保護協会(NACSJ)・世界自然保護基金ジャパン(WWF)・日本  
植物分類学会・自然史学会連合

このシンポジウムは平成21年度独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金と  
平成21年度公益信託日本経団連自然保護基金の助成を受けて開催されます

### 世界植物保全戦略の目標

#### Global Strategy for Plant Conservation

**目標 1** : 完全な世界植物誌への第一歩として、広く利用可能な既知植物種のワーキング・リストを作成する。

**目標 2** : すべての既知植物種の保全状況の初期的な評価を国内・地域・国際的レベルで実施する。

**目標 3** : 調査及び実践経験に基づいた植物の保全と持続可能な利用のためのモデルを開発。

**目標 4** : 少なくとも世界の各生態的地域の 10%を効果的に保全する

**目標 5** : 植物の多様性に関して最も重要な地域の 50%の保護を確実なものとする。

**目標 6** : 少なくとも生産地の 30%を植物多様性保全に合致した形で管理する。

**目標 7** : 世界の絶滅危惧種の 60%を生息域内において保全する。

**目標 8** : 絶滅危惧植物種の 60%をアクセス可能な状態で生息域外(原産国内が望ましい)において保全し、それらのうち 10%を種の回復・復元事業の対象とする。

**目標 9** : 作物その他社会経済的価値のある主要な植物種の遺伝的多様性の 70%を保全し、関連する原住民及び地域の知識を維持する。

**目標 10** : 少なくとも、植物及び関連する生息地や生態系を脅かす 100 種の主要な外来種に対する管理計画を実施する。

**目標 11** : 国際貿易により危機にさらされている植物種をなくす。

**目標 12** : 植物由来の製品の 30%を持続的に管理されている生産地から産出されるものにする。

**目標 13** : 植物資源の減少並びに持続可能な生計、地方の食料安全及び健康の維持に資する地方又は原住民の知識、工夫、慣行の損失を停止させる。

**目標 14** : 植物の多様性の重要性と保全の必要性を、コミュニケーションや教育・普及啓発のプログラムに組み入れる。

**目標 15** : この戦略の目標を達成するために、国内のニーズにしたがって、植物保全に関して適切な施設で働く訓練を受けた人員を増加させる。

**目標 16** : 植物保全活動のためのネットワークを国際レベル、地域レベル、国レベルにおいて設立し、強化する。

## プログラム

総合司会 西田治文氏 (生物多様性 JAPAN 事務局長・中央大学教授)

13:00-13:10 開会の挨拶と趣旨説明 岩槻邦男氏

(生物多様性 JAPAN 代表・兵庫県人と自然の博物館館長)

13:10-13:20 メッセージ 渡邊綱男氏 (環境省審議官)

メッセージ 生物多様性条約(CBD)事務局長 (代読)

### 第 1 部 世界の植物保全戦略

13:20-13:50 「世界植物保全戦略 (GSPC: Global Strategy for Plant Conservation) とは」 Stella Simiyu 氏 (CBD 事務局兼 BGCI GSPC Officer) & 老川順子氏 (BGCI GSPC Japan Project Officer)

13:50-14:30 「中国の植物保全戦略」 Hongwen Huang 氏  
(Director South China Botanical Garden/South China Institute of Botany Chinese Academy of Sciences)

14:30-15:10 「フィリピンの植物保全戦略」 Edwino S. Fernando 氏  
(Dept of Forest Biological Sciences College of Forestry & Natural Resources, The University of the Philippines)

15:10-15:30 休憩

### 第 2 部 日本の植物保全戦略と世界の植物園の取り組み

15:30-16:00 「生物多様性国家戦略と日本の植物保全戦略」  
塚本瑞天氏 (環境省野生生物課長)

16:00-16:40 「日本の植物保全戦略作成について」 加藤雅啓氏  
(国立科学博物館植物研究部長・筑波実験植物園長)

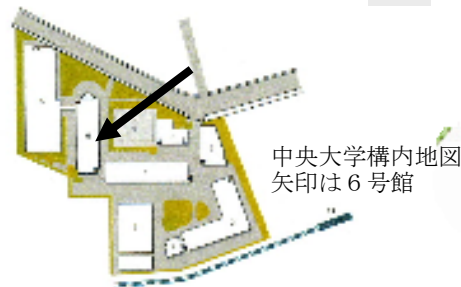
16:40-17:20 「植物園自然保護国際機構 (BGCI: Botanic Gardens Conservation International) と世界の植物園の取り組み」  
Suzanne Sharrock 氏 (BGCI Director of Global Programmes)

17:20-17:30 閉会の挨拶 西田治文氏 (生物多様性 JAPAN)

海外の参加者の方の英語講演には逐語訳通訳がつきます。



地図矢印 中央大学  
アクセス  
東京メトロ丸の内線・南  
北線「後楽園駅」から徒  
歩 5 分  
都営三田線・大江戸線「春  
日駅」から徒歩 7 分  
J R 総武線「水道橋駅」  
から徒歩 15 分



中央大学構内地図  
矢印は 6 号館



絵・デザイン 杉野由佳